

史跡 万富東大寺瓦窯跡 発掘調査現場公開資料

岡山市教育委員会

日時：令和 6 年 3 月 9 日（土）

場所：岡山市東区瀬戸町万富（発掘現場）

令和 5 年度調査成果

今年度は大寺山地区の北側の調査を行っています。東側斜面の上部にトレンチ 7、瀬戸町の調査範囲外であった斜面部北端に、斜面に直交するようにトレンチ 8、斜面中腹の幅の狭い平坦面から一段上の平坦面に向けてトレンチ 9 を設定しています。

○トレンチ 7

瀬戸町教育委員会が平成 13 年に調査したトレンチに重なるように設定したトレンチです。瓦窯の焚口付近の床面と、瓦を投棄したと考えられる瓦だまりを確認することができます。

○トレンチ 8

史跡指定地内北側の斜面部に、斜面に直交するように設定したトレンチで、瓦窯操業当時の遺構の有無を確認することを目的としましたが、遺構はなく、東大寺瓦も数点が出土するにとどまりました。

○トレンチ 9

瀬戸町調査時に西側の平坦面で灰原が検出されました。この灰を排出した窯の位置と規模を探ることを目的として、トレンチを設定しました。瀬戸町の科学探査成果をもとに窯体が存在する可能性のある箇所にトレンチを入れましたが、窯体は確認できず、灰と被熱した粘土が堆積する未知の灰原を検出しました。灰の層は少なくとも 2 層あることが土の色から見て取れ、特に黒い灰の層は斜面上側から下側（東から西）に向かって「ハ」の字状に広がっています。「ハ」の字の上部に灰を排出した窯があると考えられます。

○出土遺物

遺物としては平瓦がほとんどですが、「東大寺」の刻印をもつ平瓦や「東大寺大仏殿」の軒丸瓦に加え、須恵器椀、土師質土器、鍋の脚などが出土しています。

まとめ

今年度の調査では、新たに未知の灰原を確認することができました。また、史跡内北側斜面部には遺構が分布していないことも明らかになりました。今回確認した灰原と瀬戸町調査時の灰原との関係性や、灰を排出した窯の位置や規模・形態については不明な点が多く、課題を残すこととなりました。来年度以降も史跡指定地内の遺構の構成や分布を明らかにするための調査を継続して行う予定です。

史跡万富東大寺瓦窯跡の概要

史跡万富東大寺瓦窯跡は、岡山市東区瀬戸町万富に所在しています。この遺跡は、今から約 800 年前の鎌倉時代初頭、源平合戦の一場面である治承 4 年（1180）の「南都焼き討ち」の際に焼け落ちた東大寺の再建のため、俊乗坊重源の主導により瓦を焼いた窯跡として著名であり、昭和 2（1927）年に史跡指定を受けました。遺跡は、大寺山地区と上の山地区に分布しており、昭和 54（1979）年に岡山県教育委員会、平成 13・14（2001・2002）年に瀬戸町教育委員会により発掘調査や科学探査が行われています。その結果、少なくとも 14 基以上の瓦窯が存在することが判明し、管理棟と考えられる礎石建物や工房などの関連遺構がみつかっています。

発掘調査の概要

岡山市教育委員会では、瓦窯の規模・形態や史跡指定地内の遺構分布状況など、将来的な史跡整備に先立って遺跡のデータを把握するための範囲確認調査を令和 3 年度から継続して実施しています。過去の調査との整合性を確認しつつ、指定地内の解明されていない部分の発掘調査を行いながら、遺跡の全容把握に努めていきます。これまでの調査により、大寺山地区の南側に 14 基の瓦窯が存在することや、その瓦窯の規模や形態などの瓦窯の詳細な情報が明らかになってきました。



